

世界旅打ち気分

●第25回・須田が最近行ったオーストラリアの競馬場
・その2

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
の
#グリーンファーム会報#2020年5月号
でご覧いただけます



ローズヒル競馬場、一般スタンドの入り口



ローズヒル競馬場のレース風景



屋台村でにぎわうカンタベリーパーク競馬場

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

右側(同4コーナー側)が一般用のJ.R.フレミングスタンドとなっている。残念ながら日本人が大好きなギフトショップは無い。競馬場のグッズがあるとしたらバーでスタビホルダーがあるかどうか(あつてもこの競馬場のものではなくATCのものしかないかも)というところだ。

スタンドは中央競馬のそれと比較しても遜色のないもので、空いている開催日であってもバーや売店ぐらいいちちゃんと開いている。上のほうの階まで無料で開放されているので、飲み食いしながらコースを見下ろして観戦すると快適。中央競馬だと上のフロアはそれなりの値段の指定席ということになるが、こや後に紹介するカンタベリーパークなら、無料かつ混雑なしで可能になる。

コースは内馬場に池があり、なかなかきれいなシドニーといっても半ば郊外に近いので奥側の景色にも閉塞感がなく、広々としている。この景色を楽しむために高層階観戦はおすすだ。一方、パドック(マウンティングヤード)を一般エリア側から見ることができ、一般エリアの地上部分にはコース

に面したアントニーブルもある。上と下の二刀流観戦も、空いている開催日なら可能だ。

シドニーのメトロ4場で最後に紹介するのがカンタベリーパーク競馬場。海外からの遠征馬が検疫期間中に滞在する競馬場となっており、最近ではダンソンプレミアムの遠征に絡んでその名前を見た方がいるかもしれない。

シドニーの中心部からという距離的にはローズヒルより近いのだが、交通手段はこちらのほうが分かりにくいかもしれない。路面電車の駅もあるが、2コーナー奥のほうで、競馬場入り口までは15分ほど歩く。いまは今木の地図とGPSがあるから迷うことはないと思うが、自信がなかったらタクシーかUberが無難だ。帰りは競馬場前にタクシーなどがいない場合もあり、Uberのアプリは入れておくにこしたことはない。

場所として商業地区というよりは住宅地に近いため、海外不慣れな人にはいきにくい面があるかもしれない。徒歩圏内にこれといったホテルもなく、土地そのものが面白いということもない。競馬場に行き来するしかない感じだ。

競馬場のテイストはというと、実は紹介したばかりのローズヒルとけっこう似ている面がある。「スタンドは大きい」「建物自体は古びているが、頑張つて中をリフォームしている」「空いている開催日は快適」。ローズヒルを、少しだけ番付落とした感じがカンタベリーともいうところだ。ローズヒルが大関か関脇で、カンタベリーは秀囲気が似ている小結か前頭上位というところ(例えとして分かりにくい)。

私が行ったのは金曜のナイター開催で、これはなかなかの当たり開催だった。組まれている番組や出走馬のレベルは普通だったのだが、屋台村のようなイベントが開催しており、世界各国の料理を楽しめるようになっていた。

この屋台村イベントはいつもやっているというわけではないようだが、金曜のナイターはメルボルン地区のムーニーヴァレーも力を入れてるように、一般市民への訴求、新規顧客獲得のために重視されている。単に馬が走って馬券が売られるだけというものはなく、なにかしらの楽しい演出が加えられていくはずだ。

前号でも書いたように今年のはじめに長期オーストラリアに行っていた。前号時点で新型コロナウィルスによるオーストラリアの入国制限が決まっていたので「行けるうちに行っておいてよかった」と思っていたのだが、その後さらに事態は深刻化。ご存知の通りの状況になっている。日本の競馬は無観客が続き、イギリスやフランスでは開催そのものが止まる状況。オーストラリアに限らず、海外競馬に次いで行けるかも定かでない。この連載はまだストックがあるのでしばらく続けられるが、しばらく海外競馬に直接触れることができないと思うと、暗澹とした気持ちになっ

てしまつた。

気持ちを立て直して、今回の競馬場紹介をお届けしよう。オーストラリアが続いてしまうが(競馬場のストックが多いので……)今回の対象はシドニー。シドニーには4つのメトロ競馬場があるが、そのうちランドウィックとワーウィックについては既にお届けした。今回は残り2つの競馬場についてである。

ひとつめは、ローズヒル競馬場。シドニー市内からだと、西へ車で30分ほど、オリンピック公園を超え

たさらにその先にある。シドニーのメトロ4場はオーストラリアターフクラブという組織が運営しているが、同系列の4競馬場の中でランドウィックが一番格上であることは議論の余地がなく、ローズヒルはおそらくその次というところだろう。もちろんローズヒルはローズヒルで立派な競馬場だ。

私が訪問したのは特に重賞などのないヒラ開催の日だったが、振り返ってみるとこれがけっこう正解だった。ローズヒルに限らず、オーストラリアの競馬場は開催日による波動が大きい。イベントとして人気がある日はかなり混むが、そうでない日はぐっと空いている。ハコの立派さは日によって変わるわけではないので、空いている日に行くほうが、快適に過ごせたりもするのだ。もちろん混んでいる日は混んでいる日でその様子自体にエンタテインメント制はあるのだが、メンバーエリアと一般エリアが分かれている豪州の競馬場において、混んでいる日の一般エリアはしんどいこともある。

さて、このローズヒル競馬場にアプローチする手段は2つ。ひとつは路面電車。これは駅というか停留所が競馬場の門からすぐのところであり、その点ではたいへん便利。函館競馬場の電停と競馬場入り口ぐらいいの距離感になっている。

ただ、市内中心部からだと距離があるので路面電車だと時間がかかり、出発地によっては乗り換えが絡むこともある。海外で公共交通機関を利用するのが苦手な人は、値段は高いがタクシーやUberのほうが簡単ではある。

車で着いた場合、路面電車とは別な入り口から入ることになる。スタンドへの距離はこちらのほうが遠いのだが、場内を一通り見るといつことではこちらのほうがおすすだ。ただ帰りに同じ車寄せから乗るうとすると、タクシーはともかくUberの車はそこまで入れない。おそらくドライブバーからメッセージが来るので、競馬場敷地を出たすぐあたりまで行く必要がある。

競馬場は大きく分けて3つのスタンドで構成されているが、常に使うのは真ん中の建物。それがさらに2つに区切られており、コースに向かつて左側(右回りコースの1コーナー側)がメンバースタンド、